

『デベケ懲[チ]辱

～教懲[チ]辱[チ]～

- 1 「デベケ懲[チ]辱
- 2 ～教懲[チ]辱[チ]～
- 3
- 4 ■キャバクター講義
- 5
- 6 ●杜撰[チ]無能(わつせいたかあわ)
- 7 32歳。
- 8 ハローハヤー般人の前に大変優しく懲らしきが回懲や取刑時にせむしや厳しくかな
り余韻な一回があNQ。懲罰を[ハ]いなこ極くせ[ハ]いき[ハ]いもつた視線を回す、トト酔ひ
葉で酔ひ。
- 9
- 10 ものの姿を見た! じいがおの細かいせじの・奥細ほこを取立してこねが本人おじは田原洋次
がなべ、れのもの上に酔わててこねるせ極にむ酔ひてこな。懲罰を[ハ]いなこものが詰む
なじだす。
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15 ●主人公
- 16 20歳
- 17 飲食サービスのキャナル業務をはじめる。
- 18 じの度、主人公が働く会社が刑務所内の社員食堂サービスを請け負ひる。
- 19 主人公は会社内の社員食堂から、刑務所社員食堂へ異動する。
- 20 刑務所内はこの特殊な環境にリモサつてこたが、基本的J刑務所はみんな優しく樂
しへ仕事をこころね。共に繰り返す懲[チ]辱[チ]～おの無能の「じぶん」が厭うてこな。
- 21
- 22
- 23
- 24
- 25 ●おじか
- 26 刑務所の社員食堂で働く始めた貴女。
- 27 食堂の営業時間終了時刻に駆け込んでいた看[チ]辱の無能。
- 28 時間外ではおのがお腹を空かせた彼を放つてお土産し簡単な料理を作つておもてなし
した。美味しそう手の平ひさした彼だったが疲れてこたのかグリスを倒して看[チ]辱をお茶で
酔いつぶれました。貴女せしやがんで彼の服を拭いておもてなしたがズボンが盛つ上がり
て二枚のズボンがむち…
- 29
- 30
- 31

◆ ハラハラ
● 収録回数①

- 32
33
34
35 ■ 場所：社員食堂
36 ■ 時間：夜
- 37
38 社員食堂で食器を洗い、後は土中の主人公。
39 の山：水道を流す目を洗う顔
40 の山：蛇口をひねり水を止める顔
41 の山：お目を力ちや力ちや重ねる顔
42
43 駆け込こんでくる恭敬。
44 の山：駆けこんでくる忠臣
45
46 △△△⑨
47 慈敬「(懇意な口)あなたがへー。おだ向か食べられたか?」
48
49 主人公「あ、やつ終わつてつまつて……」
50
51 △△△⑨
52 慈敬「(がくべつ)あー、んつかあ。終わつたかあー。
53 こや、ルハドあるね。
54 もうへー歯半丁なんねんじやね……社員食堂せんしきの時間か。
55 後止やカサに入つしゃれつめいじわらわら……
56 失礼つまつだ」
57
58 主人公「△銀、まだだつたんですか?」
59
60 慈敬「(苦笑)ええ、なんなんですか?」
61 仕事でバタバタして夕飯を食べ損ねつまつて。
62 困む食べられなかつたので、夕飯ぐるぐる眺つたんですけど……
63 すみません、失礼しまつた」
64
65 主人公「へー、大丈夫なですか?」
66

- 67 懇敬 「いいですか……」
68 「この忍って呑つかないお世でやなこころじゃよな。」
69 形務所の「ぱぱじゃ」。口は山「がー軒」「あねば助かいたの」しな
70 まあ、勤務終わつに何か食べて帰つおあよ。では、お疲れ様です」
71
72 主人公「走つてくだせり。チャーハンでも構ふおむかへ。」
73
74 D工三②
75 懇敬 「へ? チャーハンもひて……へ、へへ。大好物です!」
76
77 主人公「よかうた。れなりすゞじやねのび走つてくだせり」
78 オエ:カチャカチャとボウルが鳴る音
79
80 懇敬 「またか作つてこだせりですかへ。わい終わつたんじや……」
81
82 主人公「時間外に作のせよいこへなこじらねえいのぞ
83 秘密」こへだせり」
84 のエ:チャーハンを炒め始める声・継続
85
86 D工三③
87 懇敬 「(慌てて)ねこな、無理つなこじへだせり……」
88 閉店後に料理をするのはだめだと叫ぶれてこへよどおよね?
89 ルールを破つたのせきにほこせり。
90
91 主人公「ルールはおのためにあつまわせり、ケースバイケース。
92 破つても問題ない場合もあつます。
93 それはみんなが幸せになれるケースです」
94
95 懇敬 「(謹み締めぬくつて)」
96 ルームは「かみたぬこあるナビ、ケースバイケース、か……
97 確かに、君の『』通りかもしねおせんね。
98 みんなが幸せになれるケースない、破つても問題はなづ……
99 うん、勉強になります。
100 では、お皿葉」に立派にこへよつてここぞりよいか?
101 正直お腹が空こへよつてここぞりよいか? 本當に助かっまゆ」
102 103

104 #主人公「ユーリー 食堂の入り口だ! 鍵を閉めてもいいですか?」

105

106 △工Σ⑯

107 慎敬 「あれ? お安い御用? あ。食堂の入り口、鍵も締めておきましたね…」

108

109 入り口の扉の鍵を閉めた慎敬。

110 SUE:足音・数歩

111 SUE:扉を閉め、鍵を囁く慎

112 のSUE:戻つて来的足音・数歩

113

●収録回場②

- 114
115
116 わ山:トヤーへ、お炒め娘の内山
117 椅子上に座る黒崎。
118
119 △工Σ⑨
120 黒崎 「えへ、ここ四年……業績つづくわ。
121 も腰たぬかわがれ! | 岩上銀べつが二八ハドホ。
122 JRの壁上掛ついでトコトコニドアカヘ。」
123
124 トヤーへ、お山トヨハシ上り壁土の井入久。
125 わ山:トヤーへ、お炒め娘の内山・I.J.R井出
の山:お目上壁つづき山の山
126
127 わ山:門前・数塚
の山:お目上トヨハシ上り牆の山
128
129
130 △工Σ⑩キモト(トケモ田口)
131 黒崎 「あつやんハヤリコサムカー。こだだわせもカ」
132
133 食べ始める。
134 の山:トヨハシが力トヤカトヤお目上壁うへた山
135
136 黒崎 「(食べながら)よ、業績つづく……。えへ。
137 米をしつかう食べる、岩上銀べつが二八ドホ。
138 盐口も腰つむけたばかりの山食べただけだつたので……
139 ああ、本物に美味つる」
140
141 井入久「井つら山地阿達」
142
143 △工Σ⑪キモト(井入久の方を回して)
144 黒崎 「(苦笑つ)食べる、ばかい」
145 仕事のスケジュー一ルは決めてしのせやなってかたどる。
146 じゃね田口インザヒトーマーじるじる腰川の山、
おつとベタベタつて、おまか。おまじつて、お本物に業績つづくわ。
147 社食のトヤーへ、お山に回飯を食べたりするねえでかたどる。
148 改善して美味つるかわったせやへ。え、わい食べ終ひかやこもつた……」
149
150

151 **#**主人公「呪つあつたか~。」

152

153 □工Σ⊗ヰヰト

154 猿敬 「(やうやうしづながい)

155 「えへ、充分です、おうがとう」**#**ヰヰト

156 「この懶子で食べかやつし……ドヤコハカラ味ねこあつたの。」

157 「とても美味しかつたじゅ。」**#**ヰヰト

158

159 **#**お茶を#お#主人公。

160 **#**山:#おだごお茶の入つたグリースを置く#

161

162 □工Σ⊗ヰヰト

163 猿敬 「え、すみません。お茶もで……あつがたく頂戴します。」

164 (お茶を飲み)はーー。 **#**ヰヰト

165 「あ、母つ遅れもつたー。」

166 私は看守の杜瀬猿敬と母つま。

167 「おねせ、改めてナキトバだやー。」

168

169 **#**主人公「おれなんでもん。おぬきせむつたる」

170

171 猿敬 「へへ。私の『お母つてこいつたんですか?』

172 「じいかどう!挨拶ヤセヒコだだー!」**#**ヰヰト

173

174 **#**主人公「へへ、私が『お母つてこい』……

175 紳士的な方だなと感つてたんじゅ」

176

177 猿敬 「紳士? 私がですか?」

178 (照れ)もつたな……實際はんてな『お母つてこい』。

179 「わいわいしてただけ光榮です。」

180 和也最近社員食堂に入つた方ですよね~。

181 「ハハの歯にもお見かけつた!」**#**ヰヰト

182 「つむ葉つむ葉の仕事ついてのなと感つてこあつた」

183

184 **#**主人公「慣れなこいが多くて」**#**迷惑おかされてこあつた

185

- 186 横瀬 「櫻だしなこへトノルサセ、福井櫻へ仕事やつした」
187
188 **田人公**「コハク、食事なのですか。でも福井櫻の仕業の社皿食事でつた」
189
190 横瀬 「ルルカ。一 股生業の社皿食事で櫻こしこみつたんですけどね。」
191 ハトリルセ、福井櫻内せ櫻園坂が邊つかい驚いたゞやなこじやあかへ。
192 ハマセベタシつもえな、ラニヨニココトツモアカヘ。
193
194 △工Σ⊖ヰヰト
195 横瀬 「(だ)の櫻紋ジコド」
196 櫻を継るひだなこ仕事だかへ、眞然なえじあたゞ。
197 運転止なれどもハコスジヤモズ……」
198
199 **田人公**「かた、グリスを廻つしめの横瀬。
200 の山:ラハベが廻だる相
201
202 △工Σ⊖ヰヰト(トキイロコ)
203 横瀬 「(懸しい)
204 エヌヘー。母つ脇地つヰヰカヘー。お茶」
205 リの櫻巳じ抜こわやこあわぬ。こやあ、本業に櫻だしねのかな」
206
207 **田人公**「脇にわからつてもある。大丈夫」
208 の山:田人公がしやがむ衣擦れ
209 の山:ラハベ櫻を拭く衣擦れ
210
211 △工Σ⊖ヰヰト
212 横瀬 「あなホカヘー。櫻脇せ次でわらこじあこ、大丈夫じゃよ。」
213 ブボハナホヅ幹ハのじ題題なこじや。おつりはが櫻だしねのト……」
214
215 横瀬のブボハが盛つ上がつてこねのや呪つ土驚く田人公。
216
217 △工Σ⊖ヰヰト
218 横瀬 「ハヘ。ルハツ拂つた……おへ、ブボハの櫻、お母さ櫻つ上をひす……」
219 す、あなたホカヘー。失禮つ拂つた……
220 拝ごしてこただこた歯に櫻を取立し抜つしめにあたこじや。
221
222 **田人公**「エハラスドアカヘ」

- 223 挑戦 「(蜜)あかんフルーツ」
224 も、こや……鹽漬、おこしのて皿尔じ鹽おしてねたへんのド。
225 もやか! そなうに反抗的おもふは皿尔じや鹽のてこばくい。
226 本道にあなれかくえ……
227 盆詫が熱い煙の井じ、少しふりてこだいたるおづたんこじや……」
228
229 #人々「回転ご」
230
231 △工Σ⊖ヰヰナ
232 挑戦 「(蠶)ヤハヘ、か、回転ご……。和が~。」
233
234 #人々「」の後わら士禪じあよせ。
235 休憩 盐詫の題に迷ひなれのせめいハジカモハヘ。
236
237 挑戦 「本體盐詫の題に迷ひなれのせめいハジカモハヘ。」
238 (せへんコレ)
239
240
241 #人々「種だね! ほつね! あたる」
242
243 挑戦 「和が度詫の#人々……。」 (撲)トシルズセキハルサカニドカヒ
244
245 #人々「」の題に迷ひなれの題じあたる。鹽詫じせぬつあじやくえも」
246
247 挑戦 「(セサシサコレ)
248 #人々「」の題に迷ひなれの題じあたる。確かに「」の#もじや士禪に限れない。
249
250

- ◆ ドラマハイ
- 漢語区号(③)
- 嘉近・社順食事
- 盐田・夜
- 251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
- 煙十四五回のたる歌謡。出人公せの煙十四五はやかで二八〇。
煙十四五はやかの山:煙十四五はやかの山
△工ΣΘヰヰル
「煙十四五はやかたが.....」など二二二四。
あの.....本邦十四のいじめ手延ニヤセ也題題なこ二二二四。
出人公「ニニニ二二二四。素離は方だなんも歌ひてたの」
「素離「素離だなにて.....和ノハハの唄ひてこだいたくに米糸だ」
本邦十四も出せかつたや二二二四。
トヤーペサバキウ出人公。
△工ΣΘヰヰル
「(トヤーペサバ・の翁題題)」
△工ΣΘヰヰル
「(サベツダボウ)二二二四.....せぬ、社順食事(サベツダボウ)。
イケムニシルセコヒモウビ.....」
「わ、わ々々.....」
「わ、わ々、(押送)煙十四五はやかの山:煙十四五はやかの山」
「トヤーペサバキウ出人公。
△工ΣΘヰヰル
「(トヤーペサバ)」
「(トヤーペサバ)」
「(トヤーペサバ)」
出人公「トヤーペサバキウ」

- 323 △工ΣΘキヨヒ(上を回す)
 324 猛敬 「ハヘ、先づせせのうじに腰の……」アリビテたゞわか。
 325 腰、抜土ツレハジテ
 326 素敵な方だなと瞬ひて見ておつたが、
 327 もやか「んなに積極的だつたなよ。驚いたんだ」
 328 329 +主人公「ヤクヘガタヒテ腰押されやあかへ。」
 330
 331 △工ΣΘキヨヒ(主人公の方を回す)
 332 猛敬 「私は腰面でせあつおもてかへり、ヤクヘガタヒテも腰押せつまわる。
 333 ただ、興れた犯つた類に放つては腰出を促せなべてせつまわる。
 334 ルの腰で……敵しハルールを教へたわだくわい……」
 335
 336 猛敬 「和ヒモ」一鼓引を本腰にやせだらぐいはねのか教へたわだく。
 337 寂しつれひな眼を口歎がつたつむかわつたおせんが……
 338 ハーツ……おかげで本腰になつてしおこもつたよ、
 339 セイ……覗てハダヤー。
 340 今すゞ腰に入つた相手の母に入つたつて、擦こころべ……
 341 ャぬ、今度は私が君に色々教えて込む番だよ。
 342 私の腰の上に乗つてハダヤー」
 343
 344 の山:肌が擦れぬ油+水油・リリカモド
 345 猛敬の腰の上に回せぬ形で座る主人公。
 346
 347 △工ΣΘキヨヒ
 348 猛敬 「美味しつれひは頬つて、母の女達の匂……
 349 食慾も性慾も一派に剥落してVのせ、たおひだらこじあ。
 350 ウチの食堂は作業着があつまつてかへ……
 351 エヤのヤ私服にHプロハダなんて、なんて可憐なこと……
 352 ねかきドヒプロハダをやうじやせ、簡単にねりませる腰みつたわわく」
 353
 354 猛敬 「ああ……柔らかく……簡単に腰が沈み込んでしまふわく。
 355 わつかずかへるのうなうねおひまことに腰腰體の車いばだヤー。
 356 私の更生プログリフム、抜土したこじあ。
 357 私以外の男を簡単に腰にねりまくわくのうつておせんが」
 358
 359 +主人公の腰ヒト着をおつまむる猛敬。

●収録区切り④

- 388
389 □エサ③口二
390
391 振敬 「(耳)片で響く」
392 和がやのやかの聲を前後に聞く口く口ナカトへのや
393 嘴つこい声やかのや。ト半顎も震えがせつぶなむかやつたとしみへ。
394
395 振敬 「(耳)端の・2秒程度」
396
397 振敬 「(耳)端のつながり(耳)端、片耳、両耳……」
398
399
400
401
402
403
404
405 □エサ②口二
406 振敬 「でもややこじらう」、呪を闇かげたて
407 下着の横から指を入れられてしまふかわしだれかよへ。」
408
409 下着の横から指を入れ、主人公の性器を黙黙と見詮説。
410 SE:性器に触れた水音・継続
411
412 □エサ②口二
413 振敬 「まあ、で……ヌルヌルじやなこじですか。それ上擦る……」
414 韶や皿の外側もど、ドヘコモフ震れてるやだ。
415 乳首舐め回されただらけ、口こなじでこも震るよなやれ。
416 スケベなやでやだ」
417
418 □エサ①口二
419 振敬 「ああ、韶や皿の外に揉み出すね、クコだわか。
420 パーペハ上擦り、スジノ……」
421 ハヤシナハボダリト、壁の奈トや壁づかやハハハの二輪鉗つてやだ」
422

- 423 △エヌ⑦四二
424 崇敬 「(耳括ひしたがい)のか、この内閣へ。
425 「リリリ、幽ぐだつての土トソヤラヒタムルハシマヘ
426 脚立に付掛しごとく、母ナキアチャタヤタガ回したがい。
427 クツモ頬張つておいたこじかわ。」
428 「へ、押あみーへし締め付けてやつて……坦々サつねやつねつたべ。
429 可愛こですね。でもおだくつは勃起状態ドリハドリ……
430 相のスケベな齧縫おせし、ボーリングを打つせつめた。
431 ハーフド、ハーフド」
432
433

434 △エヌ⑧四二
435 崇敬 「ふふ、だぬじゅ。豊司」ハシツヤヒシニイセカサガモカん。
436 和の体は私ががつひとつ抱え込こんですからい、逃がしがちやん。
437 仕事権を握るつもりだつたのかわしげおせんが、残念でしたね。
438 ハコを賣つたれドボ」かれながら、よーく豊司してましたやうへ。
439 「の仕事をつしゆ人間が、
440 われたぬが私共にたぬわせたなごじやなごじゅか。
441 穂やかねハシ見べても、蒸氣達つてノリルサガラツサ。
442 覚悟しておとここ」
443

444 △エヌ⑨四二
445 崇敬 「(咲)ほじ疊ぐ)おー、本命震えてやつねやつねつたな。
446 クコハハハハハハハハのルスナヒマハク持たここえじやか?
447 必死にハスハスヒト懶くル」、「可憐に……
448 しつかつ返事がでやかのここトシヒセ、」」豪美も必勝じやな。
449 クコの皮軽く剥いて押さタシハコトハナシもしおつか。トハ、トハハト。
450 いこトシコトシヒト繋いだれのせいかお好セジですか?」
451 ボコボコに轟ひ立て破綻しつむクコ、
452 ピジ摘みそじ撫で回つてお土用あわ。
453 ん、ふ、せあひ、せあひ」
454
455 井人公「イク……」

457 △工Σ⑧四二

458 懇敬 「必死な声も可憐ですかね。わいイキせいなんですか?」

459 「いじですよ、しつかう私」体を押しこじて絶頂しつぶだわ。

460 私にわやべとい顔を見せし「だやるね~」

461 462 主人公絶頂わ。

463 △工三：椅子がわづむ脚

464

465 懇敬 「え、ぐい……ミダレたんのつて、あ」くへスケベな顔しつわす。

466 むかきじやハボが反応つひせみだ」

467

468 主人公「入れしべだわ~」

469 懇敬 「えへ、入れる~。あみあせ~、今あこじへんぐを掛つてなごのじ。

470 私も脚のせじ入れたごく持かせあつおやが、入れるれすじせらわせかへ」

471

472 473 主人公「でも、せっかく……」

474

475 △工Σ①

476 懇敬 「えへー。せあひ、我慢じやまにやハボの先を撫でぬなご~……

477 やハゼツ相せ懸つ人だ。

478 では、入れずごく持かせくつなごのせしゆハボつむ。

479 下着だけ脱いでしふだわ~」

480 481 主人公の下着を下へつか懇敬。

482

483 △工Σ④

484 懇敬 「じれども……あた私の膝の上に回りぐるのうに掛つてしふだわ~。」

485 「Jの体勢で、氣持がこころJのを擦つ合ひせらわ~」

486 487 性器回十を擦つ合ひせらわ~の懇敬。

488 の山：性器回十が触れ合ひ水音・継続

489

- 490 聰敏 「(慧れぬだい)ニ、ラハ、スニハ、撲ニ……」
491 船のテロトロ船隻に、砲土にて構立しておいた。
492 ハゼなみ、ハーブ薬草でやなこじかへ……ニ、抱抱ハ。
493 むぬに、麻袋をもべておいた。
494 セガ、船の壁のカーペットカーペットアリ。
495 ニ、おぬ、船が坂道から下りておひつた……」
496
497 聰敏 「黙、ヤハセタハ翻つておあが。
498 セガ、ハハギリ歎や丑た日輪」
499 クニ擦つて土にて木ナリ——コヘテドアズ。
500 私のも我豊太アヌヌルなのビト越ニニドコモハ。」
501
502 聰敏 「(慧ギ)・ ∞ 隠避處」
503
504 聰敏 「ナハキを近づけしに、壁立たせしに、壁立たせしに、
505 とね、必死に、壁立たせしに、壁立たせしに、動物みたこじかね。
506 私も因シモハニ、壁立たせしに、壁立たせしに、壁立たせしに、
507 口題ナレ、サヨコトベダヤニ、サヨコトベダヤニ、
508
509 □エヌ \ominus アニ
510 聰敏 「(トヤー♪ナハ・ニ隠避處)」
511
512 聰敏 「(トヤー♪ナハ・ニ隠避處)残念じが、私は籠垣に沿つておかな。513 船立てておなじく、教へぬおかがい。
514 オホシの黙、ミジンコハナツ、壁立たせし。
515 ナハキの先でクニモ壁立たせしのが坂道をこご、人かな……」
516
517 聰敏 「(慧ギ)・ γ 隠避處」
518
519 \oplus 人公「マニムヤハ」
520
521 □エヌ \ominus
522 聰敏 「ズ、ラハ、抱抱ハ、私やもんハナハナハリタ……」
523 セガ、ズ、リソウキモ、壁立たせしのが坂道をぬがす。スハ、ハハ。
524
525 聰敏 「(慧ギ)・ γ 隠避處」
526

- 527 猪敬 「王の……ニ、ハハー。」
- 528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
- 「一人回salt櫛か。」
の山:榆トガヤツム山
の山:牡鹿回十が越え山の水田・川の山
- 猪敬 「(瓶の唇吸・今程度度)」
- 猪敬 「(瓶の唇吸)」
「一ツ、せめへ、眞審が想ひなつておつまひに窮屈なのですか。
私とおちやくはしゃつておせんか。」
- #人公「ハヘ、あの、貴仕へた坂を越へなつてやう」
- 猪敬 「こゝ、貴仕を感つていふた坂を使へてゆくよ。土つやなどんじ。」
本坂で船の上り下りを落つて瞬つたから、母と子の二人だよ。
- 「やうやく、好やうせぬこと、最初の坂ほど坂土へたあせん。……
船ヤバヒテ立どせぬやうにしたが」
- #人公「せこ、是非一。」
- 猪敬 「よかつた……せめへ、少しつまへだいの上り下り#人公。」
木體盐廻山もだいあつめあかひ、やつ今コ一經にこむかしてやうだが」

- ♦ ルートラック
● 支線区切り⑤

■ 嘘言:「//」
■ 言葉:タ

551 愚敏が船トノ船コレコネのせ間にこしほい主人公。
552 553
554 555
556 557 愚敏が船トノ船コレコネのせ間にこしほい主人公。
558 559
560 561 562 563
564 565 566 567
568 569 570 571
572 573 574 575
576 577 578 579
580 581 582 583
584 585
586 587

の山:呪言・一步

おとぎ話の愚敏。
「ぬつだべ……仕事かうルーズになつてこひせ、だぬだな」

「ぬつだべ、夜の見回つに品鑑が残つてこなこのじやかへ。
ほれしてこだまさんじいんせぬつねむかでよみへ。」

船トノ船の言葉は聞くが懸く」

「ばねのせじ、体調が悪かいたゞ。
本来ならせよ上向とつて事実か確認あぐせじあが。
そのよつた不甲斐ない」とせつめせん。
つかつ見回つがでわなこ懸せ隣町をつて御用をもとめぐれじこもいへ..
看守が巡回に来なこりとじ、
脱走や自傷行為をやかしてつめつめのかある。
ルールを守るのせ取引相手だらけなげ、我々も回つじゆ。わかるもあね..
わいに越え回じるんせ繰つ返りなつじやだやー」

船ト「せ、せー」

「やいじゆつてこじやく」

「ぬつだべ」
「おとぎ話の愚敏。
「ぬつだべ……仕事かうルーズになつてこひせ、だぬだな」

「ぬつだべ、夜の見回つに品鑑が残つてこなこのじやかへ。
ほれしてこだまさんじいんせぬつねむかでよみへ。」

船ト「ぬつだべ、夜の見回つに品鑑が残つてこなこのじやかへ。
ほれしてこだまさんじいんせぬつねむかでよみへ。」

- 588 □工Σ②
589 振轟 「ハヘ……ニ ル、ルハコレ相手」レジナルドルヘ。
590 エス、ルハた。『リリ鉛ト』米村セビアタヌ。ルハジアヌ。
591 今かい医院でアカホ~」
- 592 593 #人々「セニ」
594 595 振轟 「ソウヤツル、眠れったベシカタ……。あるサカニ」
596 597 #人々「ルヘ」ルヘだ!~
598 599 □工Σ①
600 振轟 「(拍子)かヘ」ルヘかヘた、ドアカヘ。
601 つかも重大なトハボト、ヘルだ!~たのビ、轟ツバヅヒトツホウヘ……
602 眠ねつて怒ねお眠カツトツモニ母ツ轟ねつモカズ。
603 今田せやひ行かなバセセコ土ねこジ。……モモヒドモ轟ツモニヘ」
604 605 の山:ナガメの呪詛・数歩
606 607 ■場所:仮眠室
608 ■時間:夜
- 609 610 休憩中の振轟の近くやヘトセた#人々。
611 の山:エトの隕轟場
612 の山:呪詛・数歩
613
- 614 □工Σ④
615 振轟 「ぬぬ、迷ひたメシヤー、眠れへれたるジアヌ。
616 仮眠場だ!~走リ離れこなこの地図へドツモニモツモツモ。
617 つせいか!~休憩止まぬので詔をつたこヒ眠てモツモ。
618 (轟アカツカヘ)
すみれセカニ、仕事母に似てたが、のせよくばつモジアヌ。
619 仮眠場だ!~人ノ慈人にはねだ!~ルド、
620 じのやうに我を覺かれてゐただ!~
621
- 622 623 □工Σ④
624 振轟 「トマーフナヘ・ヨリ隕轟」

- 661 □工Σ③□
662 慎敬 「(耳元で囁く)
663 「ださ、おたむつねやう厭せよログハムが必要かな」
664
665 □工Σ⑦□
666 慎敬 「体験盐間の間だ」リキを述べるのど、咸くせ一緒にこられまわへ。
667 ルの題」、つつかつお仕置わをしなくてはござれやんね」
668
669 ドトの鍵を閉める慎敬。
670 の山:ドトに近づく呪詛+ドトの鍵を閉める姐
671
672 □工Σ②
673 慎敬 「おずかゆつこむのを持つてこなじか、確認つなんぢやこかおせんね。
674 服を脱がおしう。私が脱がせおすから動かなこだ」
675
676 主人公の服を脱がせる慎敬。
677
678
679 慎敬 「ト着も、全部脱がせおあら……大概、隠つむのよト着の中じよかい」
680
681 慎敬 「(興奮つて)
682 はあ……穴とこつ穴、全部確認しなくてはこじまわんね。
683 隠つむのをしまつてこむ可能性もありますか?」
684 確認つおつむ、口を開けて口を丑つけたやう」
685
686 □工Σ①□
687 慎敬 「(トヤーフキス・7秒程度)」
688
689 慎敬 「まあ、うう……口の母」せ、何もこれでこなこよひだ!……
690 次は「おめでや」
691
692 □工Σ⑦□
693 慎敬 「(耳元の・7秒程度)」
694

- 695 猛敬 「おかしいですね、体をピクピク震わせ。」
696 何かやめっこ」とでもあるべきやなこんですか?
697 もつと中止を差し込んで
698 グチコグチコにかき回してみなぐりやさしくおせでな」
699
700 △工Σ③四二
701 猛敬 「(耳舐め・6秒程度)」
702
703 猛敬 「(耳舐めしながら)はら、ちゅ、」の辺は問題だといつだ。
704 次は、わいと体の下の方も確認しつづけな。
705 ベッドの上で口を開いて、歯の間がよく見えないところ
706

●収録区切り⑥

- 742 「かわいい……」みんなポーズで大事なところを舐め回されて
743 恥ずかしきなこのですか。
744 男に大事な部分いやらしさのところ。
745 田舎のいたずらによく見なやう。
746 田舎奥まで入れられて、シコルバコル音立てて呪じ舐め回されてしまふ。
747 ルビで「こんなに丸ごと舐め上げられるのですか……こやうつるんだ」
748

749 △エヌ(+)ト

750 崇敬 「(ベキューーーしながらの性器舐め・8秒程度)」

751

752 肩／絶頂する主人公。

753 の山：ベジタがヤリむ痴

754

755 崇敬 「腰がビクバク、ハニヒニ……」
756 「おおこゝを舐暴にしがらみれてイットしちゃったですか？」
757 「痴がそんなんにこじぬいて、痴う人だんせ痴わなかつたじゃよ」
758

759 △エヌ(+)ト

760 崇敬 「田舎で血糞の」とを傷ついた可憐性があのども、
761 捣束しなくわやこむせぐ。
762 セザガに本物の搾束衣を着せられたせつやせが、
763 同じポーブで体を縛つ上げてねじましやう。
764 セザ、反対の肘を捆绑もひきつて、前で腕を縛みなやう」
765

766 肘を捆绑もひつな体勢で腕を組む主人公。

767 の山：肌が擦れぬ痴

768

769 崇敬 「一度いい。」のタオルで腕を固定しつづけ。動かなよい

770

771 主人公の腕を搾束する崇敬。

772

773 △エヌ(+)ト

774 崇敬 「これで動作もやくね……」
775 「疲れたり自分を傷ついた者は、」のよひに搾束つておへどす。
776 「でも、痴のよひに縛ひたし
777 つらぶつらつた顔を舐め上げておせりつだも」
778

779 □エヌ④四二
780 振敬 「(叫びて廳へ)本邦に來態なつぢやな……
781 簡單に拘束を解いておひかわるか
782 わやべと拘束でわだか確認しなくては」
783

△エヌ④四二

784 振敬 「うう、腰じねハモニ廳がせよかいたの」。
785 つれかつ玉レーベルヒリスヒ、腰ひしせつシヒトアヌードカヘ。

786 乳首モシハトタリヒ、部屋も廳のそでこあわす。
787 恒方摘あひド、リ奈ヒテホツムハ。せむ、ハコハコウヒ……」

788 789 790

791 騎體べかぬ主人公。
792 の山:「くシジカヤフヌ母

793 振敬 「ああ、此の先で元ハ腰かれぬせひが好やなんぢつたハナヘ。

794 優しへかつかつてお土もつみね……ん、せぬ、もつじあかへ。
795 腕は拘束が外れないものじやが……」

796 腰がこやいひして動こしてこねじやなこですか。

797 あ一あ一、輻ね田かのトロシヒ腰が垂れてこまわる。

798 お仕置やだつて廳つてこねのに、向を期待してゐるだけ。

799 虚ゆつかずじ教えてへなまゆか?

800 船のスケベおもえ!」が向を求めるにねのな」

801 802 井人公「振敬さんだせつべ……」

803

△エヌ④四二

804 振敬 「(興奮)

805 私がせつぶ、とこいのせ……ヤックスつたことハハルヂですか。

806 生で、私のチーポを奥まで差し込んだお仕置やつてせつぶへ。
807 なひば、わからんと釋迦と申請をして頃かなことこたせよ。

808 腰をくつくつやむしの姿態でも、ルビハジラビモドコリドコリヘ。

809 『ふたたねめどり』、

810 担起トハボドお仕置やん教習をついてたる二八

811 812 813 814 815

服とト着を脱ぐ振敬。

●収録区切り⑦

- 853 慎敬 「何度も必死に」ひだりをかくしてから「あー」。
854 セハヤカハ、おもで「せ」は回し「シ」のところをくわこすか。
855 セハハ一、奥まで笑わ上手いと、体じる體へとへ。
856 看守長は「おれがもどり、激しげお仕置やうがして、
857 喜び人間はつ、知だ士でもいー。」
- 858 **#主人公「「おんなじこと」**
- 859 860
- 861 慎敬 「(バクヅク)
- 862 「おんなじこと」は、笑わ上手い曲の
863 グチコグチ音で全然聞こえません。
- 864 おおそじんの上手いなごどわか。
- 865 ルのつか、お仕置もだといつてお見やつて、
866 子供が降つてやつておこないですね……。
- 867 ルの藍は、お赦なく入つ口に黒子を洗わ込むやうだよかねー。」
- 868 869 **#主人公「お願いします……」**
- 870 871
- 872 慎敬 「(バクヅク)
- 873 お願いします……本物の変態だな……
- 874 それせつまつ、精子で母おかれただけの間いとへんですかー。
875 「希望通り、奥までエクヅク腰こゆつ洪毛汲み地獄もつもー。
876 こうぢわねー。」
- 877 878
- 879 **○三・ピストン音・激しふたば**
- 880 慎敬 「(激しふたばの程度度)」
- 881
- 882 慎敬 「(懇やながり)
- 883 精子、せつまつがいたれど…… あー、ぐせあー、ああー、
884 ん、ああー、自分で「おんなじ情熱的に腰を振るな」といっ
885 知りなかつたじゃよ……。
- 886 君のおかげで、じつじて知りなかつた自分を睨つたんだねー。
887 でも、戻れなくなつたんだ……責任、取つてもらおうかー。」
- 888 889 **#主人公「やめらへども」**

- 890 □エサ \ominus アヒ
891 横濱 「やあへー、お皿こわしだねー。顔も糞つまむかえだつやねー。
892 和わ假井 \oplus ロビ \ominus ハーバルの仕置かなつて
893 もれいなつ本こつてぬ上あかひ。
894 ハヘ……縛れついで……せあへ、せあへ、抱なご、イクルジルだつた……
895 ハズカムの「じく」を禰慾つたださうど、
896 ねあいりやまくわまくつたさうどあかへ
897 ハスルハ、ストグドあかへー。」
898
899 横濱 「(漬つるべト、・糞穢題)」
900
901 横濱 「ハヘ、抱ぬへ、やあへ、ヨリホアヘー、イク、イクイクイクー、
902 もれい、ヨリホアモー。ハズカム、お仕置かなうへー。
903 煮々糟ナシハカラヌおホーイド飲み十ツナヤニー。
904 ハヘ、抱、抱ぬぬぬへー。」
905
906 ।人回歎 \rightarrow 懲 \rightarrow ハ \rightarrow 。
907 の山 \rightarrow ズシ \rightarrow カヤ \rightarrow お組
908 の山 \rightarrow スル \rightarrow ハ細 \rightarrow リ \rightarrow お組
909
910 □エサ \ominus アヒ
911 横濱 「(漬つるべト、糞穢題)」
912
913 横濱 「(漬つるべト)
914 ハー、ハーハ、モー、ヨリホアキコヤシだ……せあ、ニ、せあへ。
915 ハヘ、スヌヘ……モだん腰廻かコトハズシテアズ。
916 もれ、やあハスル仕置わざくつてぬつこひいじルジルダカヘー。」
917
918 横 \rightarrow サ人公。
919
920 横濱 「ハズカム盐體わあつまわー、禰慾つまつものひか……」
921

- ◆ ムツラクナ
● 収録区分⑧

■ 場所：仮眠室
■ 時間：夜

922
923
924
925
926
927
928
929
930
931
932
933
934
935
936
937
938
939
940
941
942
943
944
945
946
947
948
949
950
951
952
953
954

「せぬ……拘束したままお仕置を貰生ハロドウハの繰やをつまつもハ。
私の腰の上に乗れまわか？・サヨコおわね……そ！」

拘束状態の主人公を自分での上に乗せ、主人公がまたがる体勢になる。
の山:シーシーが擦れの音

DHS(+)ト

崇敬 「ふーっ……相に上にあだがられて、下から見上げるのは新鮮である。
」の山:相の上へ腰を落とし、挿入してみてください。
「ハドモわかつ固くなつておわかい、簡単に舟に入れる腰これがいい。
わぬ、サタサタヤドリ腰がなむ」

セーブと腰を落とし挿入する主人公。
の山:挿入時の水音

崇敬 「えい……せぬ、おぬい。おぬいに奥まで入つたやうにおしたな。
背中もんねり返ひついで入れただけでぬきあつたんでやか。
体も自由がやかなこ状態で、下から貫かれていいくだなんて。
相は立などですね……じむ一度いい。私と相性ピッタつだ。
殴刑者も、社会復帰を始めたのに
刑務作業をやめたりは相も知つてないじょ。
相は変態にならなつたため、自分で腰を動かす大変さを察するつもい」
腰を動かし始める主人公。
の山:おつたつとしたピーストーナ音・継続

- 990 □エサの口(主人公が身体をたおつた状態)「おれたちの」
 991 猫姫 「ふへ、癪(きず)……。おねがい、城(じょう)主(しゆ)が此(この)處(ところ)にゐるへ、
 992 蜂子(ハチコ) 「…………」
 993 蜂子(ハチコ) 「…………」
 994 蜂子(ハチコ) 「…………」
 995 蜂子(ハチコ) 「…………」
 996 猫姫 「(癪(きず)の口(くち)・の糞(くそ)問題)」
 997 998 #主人公「トヘ、トヘのやうへー。」
 999 1000 □エサの口(主人公)
 1001 猫姫 「えぬへ、やうの蠅(イブ)つあわせでかうひなはるへておる。」
 1002 金(かな)屋(や)がふの土(つち)をひいて、やうのよこじりべつぐな蠅(イブ)になつて……。
 1003 土(つち)ぬ、ふへ、腰(こし)の口(くち)がハマシや枝(えだ)をしおる。」
 1004 女(め) 「蠅(イブ)は……。」
 1005 1006 #主人公(ハチコ)「癪(きず)吹(ふき)やうへ。」
 1007 1008 の山(さん) : ハチコ
 1009 1010 □エサの口(主人公)
 1011 猫姫 「(癪(きず)吹(ふき)の)蠅(イブ)が城(じょう)主(しゆ)の蠅(イブ)へ、
 1012 本(ほん)家の土(つち)をひいてマシだらうのか、
 1013 蜂子(ハチコ) 「…………」
 1014 1015 #主人公「あ、あんなやうへー。」
 1016 1017 猫姫 「蠅(イブ)がいたいわ、おれども!」
 1018 蜂子(ハチコ) 「…………」
 1019 蜂子(ハチコ) 「…………」
 1020 1021 #主人公の抱(いだ)きを取(と)つ、「ハハハ」
 1022 の山(さん) : 衣(い)装(き) + ベンチ + カサ + ソウ
 1023 1024 □エサの口(主人公)
 1025 猫姫 「あ、アヒーブ!」
 1026 素(す)直(ただ)なまじかの土(つち)を撒(まき)ておる。」

1027 □工Σ⑤ヤギト

1028 滅敵「でも、翻手」壁を壊して

1029 繰返せつた廻を散歩して「ただかなごとこ土井ちゃんがいたんだね。

1030 「へんなから入れまわ……力を抜いてやるや」

1031

1032

- 1069 懇敬 「くへ……おたいつわやこあしたね……ん、ふーへ……
せあ、せあへ……」

1070 ああ、腰力クガク靈れきをせしトイキもへへ、せそと可愛こ。
でも、まだ腰出ぬいおせなこ……かへんこに顔、見せし……」

1071 1072 1073 1074 1075 1076 1077 1078 1079 1080 1081 1082 1083 1084 1085 1086 1087 1088 1089 1090 1091 1092 1093 1094 1095 1096 1097 1098 1099 1100 1101 1102 1103
主人公「せ、せこへ。ほ、 JV『坂持かこ』、じかへ……」
○エス④アコ
懇敬 「(素)こなつ」
物こつたな、ルイJおで金船素直に返して貰ひて仕方ない。
君の話でせ看け跡の肩書きが取れて、ただの男に戻せたのも……
ずつと、ホールせかねむだつて思つてもたの」。
君とこねじ、色々な境界線が緩くなりそうだ……
はあへ、せあへ、ただがむしづやいに腰を動かしたい。
腰せんか、歸りか関係なく……相とセシクスつたへしこもつがなこへ」
△エス⑤アコ
懇敬 「くへ、くへー。せあへ、全端せれい。
今は和じ懲せにまつてしてここへだよなへ。
俺はつ……わづ君の」とつか考えられなじかへりつ。
はあ、くへ、君は俺の価値観全部ひつづつ返したんだよ。
ルールよつも大事な」とがあれば、優先しつわらへんだけだへ。
今おでならんない」と考へもしなかつたの」。
君が教えてくれたんだ……あらがとへ。
ルールよつ、和じ坂持の良べたれい」と優先だつ……
んへ、トハボ謙ひのじせた」
△エス⑥アコ
懇敬 「(咲)R(囁)濃厚精子、和じ種せきすの準備万端だ。
せし状態なんでもうんだよなへ」

1141 D-HΣ①

1142 猛敬 「俺のふるえな姿?.. ん、こゝよ、和」に俺の全部見せてあげる。

1143 俺、明日は休みなんださ。今晩でも明日でも、俺の『家』に来や。

1144

1145 #主人公「せーー。」

1146

1147 猛敬 「決まりだね。じやあ、ウチに来たら一緒に飯作のわ。

1148 飯の食事で困るなって姫つぶや……」れからか、みへしへね」

1149

1150

【END】